・パンフレットは、委員会だけでなく一般の人にも意見を聞いた方がよかったと思います。

事務局

・パンフレットは、中学生にも理解できるように作成したので、内容的には本編を要約させて頂いています。

・パンフレットの配布先は、どのように考えていますか？

事務局

・関係市町や今まで意見を頂いた方に配布したいと考えています。また、HPからダウンロードできるようにします。

○ 河川整備計画策定後の取組み

整備計画策定後のフォローアップ手法について説明し、主に次のような意見を頂きました。

・フォローアップの仕組みは賛成ですが、専門家と地域住民との議論など、横の繋がりも必要だと思います。

・フォローアップ委員会がパレットとなり、他との連携も確認・協議していく必要があると思います。また、そのような仕組みづくりは、今後の課題になると思います。

・毎年フォローアップレポートを作成し、配布してはどうですか？

事務局

・フォローアップをうまく進める仕組みを作っていくことが大切だと思います。

・フォローアップ会議は、毎年どのような効果が現れているかをチェックして、PDCAサイクルを機能させていくことが重要と考えます。また、監視委員会は事業監視をすることが役割だと思います。

・フォローアップ会議は、PDCAサイクルの中で実施計画を評価し、修正していく役割があると思います。

・5年先くらいの段階的整備計画が必要だと思いますが、事業効果が出ない整備メニューもあるので、効果を確認する期間を検討していく必要があると思います。

・フォローアップ会議は、事後評価ができれば良いと思います。個別の課題については、流域全体との連携を検討していくことが必要と考えます。

○ 土岐川庄内川流域委員からの一言

整備計画策定にあたって、各委員から次のような一言コメントを頂きました。
なお、当日欠席の委員には、事前にお言葉を頂きました。

（五十音順）

阿部 和俊 委員	流域委員会は、とても勉強になりました。また、一住民として、楽しく安心して暮らせるよう、専門家の方々にお願いしたいです。
石川 和紀 委員	河川法改正により民意が整備計画に反映されるようになりましたが、反面、整備計画策定までに長時間を要することとなりました。庄内川水系においては後発の木曽川水系に比べ少し時間がかかり過ぎた感がします。
石田 繪美子委員	川を恐れ川を愛し、川と共に生きるわたくしたち地域住民こそ、誰よりも川について知らなければならないのだということを、肌で感じた5年間でした。この経験を生かし、川に背を向けることなく、向き合って暮らして参りたいと思います。ありがとうございました。
内田 和子 委員	様々な課題を抱える都市河川の１つである庄内川の委員会に参加させていただき、地域性に配慮した治水の重要性を改めて学びました。庄内川で学んだことを、岡山の３川の整備計画策定に活かして参ります。長期間ありがとうございました。
小笠原 昭夫 委員	委員会では、環境面についてあまり大きく取り上げられなかったと感じました。 また、現在、名古屋市指定の天然記念物はほとんどすべて古木なので、レッドデーターブックにも登録されているチュウヒを見かけることができる河口部のアシ原を天然記念物にしていけるように名古屋市に働きかけたいです。
片田 敏孝 委員	環境と防災、そして水利と様々な観点からの議論は、まさに相互の調整問題でした。流域の住民の皆さんからの意見も踏まえて、これからの土岐川庄内川流域のあり方が描けたと思います。
桑野 由美雄 委員	昨年の途中から委員を交代し、北海道から転勤してきた私にとっては、都会を流れる河川流域の皆様の熱い思いがひしひしと伝わって参りました。今後、本整備計画の実行が私達の子孫次の世代へと末永く受継がれて行くことを節に願います。
小尻 利治 委員	庄内川は、上下流でそのよさを理解しやすい距離を保っており、内容のある交流が可能である。今後は、量だけでなく質の監視による環境保全と気候変動による都市生活へ影響評価を考慮する必要がある。
小菅 俊洋 委員	多数の方の意見を取り入れた、まずまずのプランになったと思います。年年歳歳、いい川になって行くと喜んでいただける事を願います。
辻 淳夫 委員	もう5年にもなるのかと驚いています。川のことも、河川行政も何も知らずに、素人であることに徹して、素朴な発言をしてきました。河川行政が流域行政に変る日が来ることを待ち望んでいます。
辻本 哲郎 委員長	第1回流域委員会を立ち上げてから5年の歳月を要しましたが、良いものを作ってきた証拠だと思います。また、住民との双方向の意見のやりとりを先進的に取り組み、流域委員会の雛形となっているという自負もあります。 今後も学識経験者・住民・行政の連携を図り、整備計画の普及や工事実施についても継続的に実施して頂きたいです。
寺本 和子 委員	川は本来危険なものであることを多くの人が認識する必要があります。しかし、人々が少しでもより安心して暮らせるように、この河川整備計画に基づき今後も河川事業が着実に進められることを期待します。
冨永 晃宏 委員	近年の気象変動を考慮して超過洪水に対する被害軽減対策を考えておくことが重要である。また、この地域における貴重な水辺・自然環境であることを認識して、流域住民が自慢できるような川づくりを目指して欲しい。
原田 守博 委員	5年間にわたる流域委員会を経て、整備計画策定に尽力された方々に敬意を表します。今後は適切な時期に、計画の進捗状況を客観的に点検・評価するとともに、流域全体を見すえた更なる展開が図られることを希望します。
松尾 直規 副委員長	計画を実施に移していく段階でも、計画段階と同様に流域住民の方々の意見をくみ上げ、適切かつ効果的な事業実施が行われることを望みます。